

京街道七曲がり

きょうかいどうななまがり



京街道(七曲がり)

大阪城が完成し、豊臣秀吉が文禄3年(1594)伏見城築城の際、大阪城下町整備に大阪城から桃山城、伏見城を結ぶ街道を整備。同時に淀川左岸の枚方から長柄付近まで連続堤防を築いた。

起点は大阪城の北京橋口。京橋口より北へ直線に内代の水神社から高殿4丁目南側を通り、蛇行し曲がりくねった道になり、高殿7丁目へ。この付近の道を七曲がりと言う。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに勝利した家康が、幕藩体制を維持するため、東海道の整備。当時品川宿から大津宿の53次が大阪宿が終結に。元和元年(1615)西国大名の参勤交代路の目的で京街道に追加され(5.5km)起点が大阪高麗橋に。〈遠藤〉



京街道の七曲がり

旭区高倉4丁目から京街道付近

日本式築城の名残である、大阪城と姫路城と比較してもその精神は変わらない。合戦を想像すると攻める側は、大阪城を目標として行軍してくるが、急に城が見えなくなる守る側は、そこに待ち受ける側が頑張ってお守り。敵の状況は丸見えであり、石落ち、銃眼によって固く守られており攻める側は全く攻めるも逃げるも完全に身動きのない状態に陥ってしまう。

姫路城でもその規模は大小あるが様式は全く変わっていないように七曲がりは小さな要塞であった。〈小林〉



〔大宮神社の一の鳥居〕

大宮神社の横の道を直ぐ京街道と交差したところといわれており、大宮神社の氏子は相当大きかったようで祭りには通行人で賑わったと思われる。〈小林〉



■現在の七曲がり付近

高殿の思い出

今から1800年前は、今の高殿の周りは海でした。深い地面の中から貝殻などが見つかるなど、そこからも想像できます。

高殿小学校付近では「州(しま)」になっていて、「南島」と呼ばれていたそうです。

南島に大宮神社があり、境内にあった一番高いところに建てられた建物跡の所に、高殿と名前がつけられた。大宮神社より高殿小学校前を通り、高殿4丁目の京街道に参道があり、高殿4丁目の高殿小学校付近に鳥居があった。道の脇には井路川が流れていたとの事。

又、高殿南は人が住まず、全体が湿地帯で井路川が網の目のように流れていた田沼地で、水に通じた農作物を耕作していたと思われる。内代、関目、南島、中村、に住んでいた人達は、三枚板と呼ばれる5m位の舟で、水路を利用して出来た作物や、肥料の移動手段として井路川を利用していた。現在は井路川は全く無く、うめられて道路となっているのが多い。

最近の高殿は、明治18年に淀川がつけかえられ、京阪電車が明治43年開通(天満橋～京都五条間)蒲生、野江、森小路の各駅。昭和2年国道1号線舗装工事が始まる。

昭和3年区内初市バス(片町-森小路)、(東野田6丁目～森小路1丁目)。

昭和6年市電開通(都島～守口)、昭和7年旭区誕生(東成区分区)、昭和32年今里～守口間トロリーバス運転開始。ダイエー1号店平林に開店。昭和52年地下鉄(都島から守口)

高殿は、低農村地域から労働集約町へ変化し、2,000人口から10万人口へと交通の便利な町になりました。大阪市営バス、地下鉄(谷町線と今里筋線)、京阪電車が走っています。

国道1号線は東へ行くと東京まで、西は梅田新道へ、国道2号線で下関か九州へ。

阪神高速道路が走り、名神、中国道、山陰道へと連絡して住みよい町となりました。

高殿小学校1975年に児童が1,600人を超え、1980年に高殿南小学校ができました。〈遠藤〉